2025 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	**アジア・太平洋戦争末期全国町村における厚生運動の受容と展開**
キーワード	①アジア・太平洋戦争期、②都市、③厚生運動

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏　名	セキグチ　ユウヒ 関口　雄飛
配付時の所属先・職位等 （令和 7 年 4 月 1 日現在）	日本体育大学オリンピックスポーツ文化研究所・助教（RF）
現在の所属先・職位等	富山大学教養教育院・講師
プロフィール	専門は近現代日本のスポーツ史です。具体的には、戦時下の都市で拡がりをみせた厚生運動（recreation movement の日本語訳）や、日本体育会体操学校及び日本体育専門学校（日本体育大学の前身）、サッカー審判員を対象に調査・研究を進めています。日本体育大学大学院修了後、同オリンピックスポーツ文化研究所助教（RF）を経て、現在は富山大学教養教育院講師として勤務しています。

1. 研究の概要

本研究の目的は、アジア・太平洋戦争末期全国町村における厚生運動の実態を、26 に及ぶ指定地区（3,000 人～5,000 人規模の町村）を対象として解明することであった。具体的には、1943 年～1945 年の指定地区における厚生運動の受容と展開を、各自治体の動向に視点を定め、また、大中小都市（東京市、名古屋市、大阪市、徳島市、岡山市、小倉市、八幡市）の動向も射程に収めつつ、当該地域に本社を置いた新聞等を用いる歴史学的方法で解明することを目指した。本研究が 1943 年～1945 年までを分析対象とする理由は、「三隅ノート」で指定地区の厚生運動が 1943 年～1945 年 8 月まで実施されたと確認されたためであった。各自治体に視点を定める理由は、指定地区における厚生運動を職掌としたのが各自治体の部局課だったためであった。大中小都市の動向を射程に収めるのは、指定地区における厚生運動がそれぞれとの相互交流を経て推進されたと考えられたからであった。

2. 研究の動機、目的

厚生運動をめぐっては、戦後約 40 年間、独伊の recreation movement との比較が行われその低位性が強調され続けてきた。独伊の recreation movement が国家規模で推進されたのに対し、日本では、厚生事業の実施とそれを媒介にした国民動員体制は無い、無いに等しかったと評価されてきた（丸山,1947、山口,1979）。しかし 1990 年代以降、厚生運動は独伊の recreation movement と比較すれば極めて小規模であったが、大都市における厚生事業の実態と国民動員力に注目すれば「理念的にも実践的にも格段に強力なものとして展開された」と評価が転換した（高岡,1993）。以来、厚生運動をめぐる全体像は、1938 年～1940 年頃に大都市において成立、1941 年～1942 年頃に国策規模へと拡大したものの、戦局の悪化が顕著になる

1943 年～1945 年頃に衰退・消滅したことが通説となってきた（高岡, 1997）。

だが、厚生運動は 1939 年～1945 年の中小都市（徳島市、岡山市、小倉市、八幡市）、1943 年～1945 年の全国町村（26 に及ぶ指定地区）にも拡がり、継続されていた（関口, 2023）。例えば、徳島市の厚生運動は、市職員が第 2 回日本厚生大会（1939 年、名古屋市）に参加したことを契機に着手され、アジア・太平洋戦争期には他都市、外地、政府、軍部に認知される程であった。しかしアジア・太平洋戦争末期、1943 年以降に着手され始めた全国町村（26 に及ぶ指定地区）における厚生運動の実態は全く明らかにされていなかった。

高岡（1997）が厚生運動の全体像を提示して 25 年以上が経過した。しかし四半世紀以上もの間、大都市以外で厚生運動が実施された可能性は視野外に置かれてきた。先行研究では、国内最大の厚生事業であった日本厚生大会（第 1 回-1938 年-東京市、第 2 回-1939 年-名古屋市、第 3 回-1940 年-大阪市）の開催都市に焦点が絞られてきたためである。

こうした状況下にあった 2020 年、元日本厚生協会主事三隅達朗の日記「三隅日記」を余暇問題研究所の書棚で発掘した。「三隅日記」からは、1941 年に徳島市厚生協会が設立され、1943 年に人口 3,000～5,000 人規模の全国の町村が 26 に及ぶ指定地区として選ばれた事実が判明した。以来、調査を重ねた結果、厚生運動は、大都市（東京市、名古屋市、大阪市）、中小都市（徳島市、岡山市、小倉市、八幡市）、指定地区（3,000～5,000 人規模の 26 町村）にも拡がっていた事実が判明した（関口, 2023）。3 都市のみで実施されたとみられてきた厚生運動は、実は、全国規模で拡がりをみせていたのである。それ以降、中小都市における厚生運動の実態を明らかにしつつある。だが、指定地区における厚生運動の実態は全く詳らかにされていない。

以上の研究状況を受けて、本研究は、アジア・太平洋戦争末期全国町村における厚生運動の実態を明らかにすることを目的とした。具体的には、1943 年～1945 年の指定地区における厚生運動の受容と展開を、各自治体の動向に視点を定め、また、大中小都市（東京市、名古屋市、大阪市、徳島市、岡山市、小倉市、八幡市）の動向も射程に収めつつ解明することを目指した。

3. 研究の結果

本研究では、1943 年～1945 年頃に衰退したとされる厚生運動が、1939 年～1945 年の中小都市（徳島市、岡山市、小倉市、八幡市）へと拡がり継続されていた（関口, 2023）、という先行研究の成果に基づき、まず、徳島市の厚生運動に関する詳細な分析を進めた。その結果、徳島市の厚生運動は、市保健課が、市が直面していた保健衛生をめぐる深刻な問題を厚生運動で解決するために、その権威者の激励や教示を契機として各関係者に力強く働き掛けたり、大阪市の厚生運動論を導入したり、当該地域で親しまれてきた身体活動の「享楽的分子」を時局に適合させたりしていた事実が浮かび上がってきた。

また、徳島市の厚生運動と指定地区との接続こそ確認できなかったものの、以下のような事実も明らかとなった。すなわち、日本厚生協会は、1943 年 10 月 11 日付で各都道府県幹事長（内政部長）宛てに「〔指定地区〕候補地申請書提出方通牒」を発した。この地区の対象は 3,000 人～5,000 人規模の町村で、その趣旨は「特別指導」を行い「所期の効果」をあげるとともに、その結果を踏まえて「運動の全国的指導対策の樹立並に実践に資せんとす」ることであった。翌 1944 年 2 月には 26 に及ぶ指定地区が正式決定し、8 日より巡回映画会が実施されたり、



担当者派遣のもとで「〔指定〕地区の実情」に関する調査が行われたりした。そして、10 月以降には「〔指定〕地区指導者協議会」が順次開催された。

アジア・太平洋戦争末期、大都市においては衰退を余儀なくされた厚生運動も、指定地区においては活動が続けられたのである。

4. 研究者としてのこれからの展望

通説では、厚生省体力局の方針に沿う形で、主に大都市において厚生運動が推進されたと理解されてきましたが、私の研究では、大都市はもちろん、中小都市や指定地区にも拡がりをみせた点に焦点を当てて、「厚生」という曖昧な概念がいかにローカルな文脈で再解釈され、実践されたのかを実証的に明らかにします。膨大な一次史料を駆使しつつ丁寧な分析を行うことによって、中央と地方の相互作用のなかで生み出された厚生運動の多様な姿を描き出します。引き続き、ひとびとの身体がどのように戦時体制に組み込まれていったのかを、都市という視点で探っていきたいと考えています。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

この度はご支援を賜り誠にありがとうございました。この度の助成を受けたことによって、貴重な史料を収集することができ、新たな史実の発見に繋がりました。今後も、史実の発見と分析を積み重ねていき、既存の歴史像を捉え直すような研究を目指したいと考えています。